



安芸太田町教育21もみじプラン教育目標 「地球・世界的規模の視野を持ち、世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」

ミッション 地域社会に貢献できる生徒の育成 ビジョン 主体的で協調的な学びの推進

学校教育目標 学びを生き方につなぐ教育の創造 学校研究主題 深い学びを引き起こす授業づくり
めざす生徒像 挑戦 感動 感謝の心をはぐくむ生徒 ~「知識構成型ジグソー法」を取り入れた単元開発を通して~

中期 経営目標	短期 経営目標	評価項目及び評価方法	評価基準	担当 分掌	中間 評価	最終 評価	達成状況及び改善策	評価委員の意見		
学力の向上	学習意欲の向上と自主学習の充実	基礎的・基本的な知識・技能の定着 ・生徒質問紙「なぜ学ぶのか自ら考える」の肯定的回答85%以上 ・自主学習60分以上の生徒85%以上	A：80%以上 B：60~80% C：60%未満	教務 研究部	B	B	「なぜ学ぶのか自分で考える」の肯定的回答73.7%（前期：89.2%） 自主学習60分以上の生徒 平日51.4%（前期：59.5%） 休日55.3%（前期：62.2%） いずれの項目も前期と比べて数値が下がった。ただ、自主学習の内容からは、学習の質の向上が見受けられる。生徒が年間を通して高い志をもって学習に取り組めるよう、興味や関心が広がる授業づくりを追求し続けていく。また、学習面での保護者のサポートも引き続きお願いしていく。	自主学習に対する意欲と学習時間に相関関係があると思う。コロナ禍の中で、学力格差が表れていることが心配である。生徒が学ぶ意欲を持ち続けたいにも、環境が大切だと思うので、個別の指導や保護者への協力依頼等を引き続きお願いしたい。学校として取り組む方向性ははっきりと持っているため、保護者の協力も得ながら継続した取組を行ってほしい。キャリア教育と関連つけた取組が大切だと思う。家庭学習について、生徒と保護者両方に手法やツールの情報提供を丁寧に行う必要があると思う。		
	協調学習の実践	深い学びを引き起こす授業の実践 ・生徒質問紙「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答80%以上 ・各種学力調査で、すべての教科の平均正答率等が全国平均を上回っている。	A：80%以上 B：60~80% C：60%未満				B	B	「友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることで、学習内容の理解が深まる」の肯定的回答89.5%（前期：81.1%） 9月に全学年で実施した学力診断では、全学年15教科のうち8教科が全国平均を上回った。 教員の指導力の向上（協調学習の実践、ICT教育の推進、学びを広げ深める発問の工夫等）及び生徒個別の最適な支援を通して、主体的・対話的な学びをさらに充実させ、自分の考えを論理的に相手に伝える表現力の育成を図る。	学力診断の結果で、全国平均に達しなかった教科が半数以上ある原因を分析し、指導につなげてほしい。協調学習の成果として、小規模の学校でも全国や世界に発信する機会が多く設定されている。生徒に自分たちの力を見つめさせ、さらに向上していけるよう期待する。人の意見を聞いたり、自分の意見を伝えたりするためには、言語力を高めることが大切である。そのために読書を勧めることが効果的だと思う。協調学習の成果が上がってきていると感じる。ICTを積極的に活用し、教育内容のさらなる向上を期待する。
社会に貢献する力の育成	自らの成長が実感できる	進路指導の充実及び進路実現に向かう意欲・態度の向上 ・保護者質問紙「進路に関する情報提供」の肯定的回答率85%以上 ・充実感と向上心(i-check)の肯定的回答率85%以上	A：80%以上 B：60~80% C：60%未満	生徒 安全部	A	A	「進路に関する情報提供」の肯定的回答88.9%（前期96.7%） 充実感と向上心(i-check)の肯定的回答 1年生:90.8%、2年生:81.3%、3年生:91.3% （前期:1年生:87.5%、2年生:83.3%、3年生:85.0%） 「進路に関する情報提供」については、目標値は上回ったものの、前期より8ポイント下がっていることから、来年度は保護者が求めている情報を発信していく。「充実感と向上心」については、生徒が主体的に考え活動することができた。来年度も引き続き、生徒主体の取組をすすめる。	進路に対する向上心を持ち続ける指導を継続して取り組んでほしい。公立高等学校入学選抜制度の改善など、入試に向けての情報を生徒や保護者に提供してほしい。身近な先輩方（高校生、大学生、社会人）の話を聞く会などを行い、進路について具体的なイメージがもてる場を設定してもよいのではないか。高校進学だけでなく、大学進学や就職、社会問題などを考えることを通して、自分の将来像を描けるような指導をしていけるとよい。		
	実践意欲の育成	自己肯定感の向上 ・成功体験と自信(i-check)の肯定的回答率85%以上	A：80%以上 B：60~80% C：60%未満				A	A	成功体験と自信(i-check)の肯定的回答 1年生:84.6%、2年生:81.7%、3年生:75.6% （前期：1年生:83.5%、2年生:76.3%、3年生:75.0%） 後期には、新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、体育祭等の学校行事や地域清掃等のボランティア活動を実施することで、おおむね数値目標を達成することができた。来年度も引き続き、感染予防に努めながら教育活動を行い、評価することで自己肯定感を向上させていく。	どんな環境にあっても、まず「やってみよう」という挑戦する気持ちが、以後の自信につながってくると思う。多感な中学生時代に、多様な価値観に触れることは大きな成長につながると思う。学校行事や部活動などを通して成長できることがたくさんあることが、コロナ禍での学校行事等で明らかになった。Withコロナでもできる特別活動の可能性を探ってほしい。
	地域貢献の意欲と態度の育成	地域貢献活動への参加 ・社会参画(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・地域貢献活動後の生徒の感想(肯定的記述)	A：80%以上 B：60~80% C：60%未満				A	A	社会参画(i-check)の肯定的回答率 1年生:85.6%、2年生:81.5%、3年生:82.5% （前期：1年生:87.5%、2年生:79.4%、3年生:82.5%） ボランティア清掃後の生徒の感想から肯定的記述がみられた。 後期には、3回のボランティア清掃を実施するなど、地域貢献活動を実施し、実施後の生徒の感想からは肯定的な記述も多くみられた。来年度も引き続き、特別活動や総合的な学習の時間等を活用し、地域とのつながりを大切にしたい地域貢献活動を充実させていく。	社会参画への行動、とりわけ中学生など若い世代の行動は、社会全体に夢を与えることにもつながると思う。同じ生徒が複数の項目で数値が低い傾向があるのかもしれない。個々の生徒について丁寧な分析を行い、必要な手立てを行ってほしい。地域の中で中学生が活躍してくれることは大きな力となる。今後も引き続き取り組んでほしい。ボランティア活動が学校の伝統となっているので、さらに発展していけるよう指導をお願いしたい。
信頼される学校をつくる	学校の公開性の向上	保護者・地域への教育公開及び情報発信の充実 ・学校の情報発信に対する肯定的回答率90%以上 ・教職員の「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答率90%以上	A：80%以上 B：60~80% C：60%未満	総務部	A	A	学校の情報発信に対する肯定的回答率97.7%（前期100%）。 「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答率81.8%（前期72.8%）。 情報発信について、前期に比べて肯定的回答は下がったが、十分満足できる状況である。引き続き、様々な場面で情報発信を積極的に行う。教職員の意識改革が進んでいる。業務改善を通して、引き続き働き方改革を推進していく。	生徒が「安芸太田中学校の先生方は楽しそうに働いている」と言っていたことを聞き、そういった環境の中で学べる生徒たちも幸せだと思う。このようなエピソードもホームページで発信していけばよいのではないかと。教職員の働き方改革は取組途中でもあり、急激に変わるものでもないと思うので、教職を志そうとする生徒の育成を直接めざしてもよいのではないかと。生徒、保護者、地域とのよい関係が築けるよう、情報発信をしてほしい。		